

新年のご挨拶

長崎歴史文化協会会長 小川 洋

平成三十年を迎え、謹んで御祝詞申し上げます。旧年中は、当協会が主催いたしました講演会・学習会をはじめ研修などの諸行事に対し、皆様方から多大のご支援、ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

長崎も県庁舎新設移転をはじめ、大きなプロジェクトが目白押しです。地域の大変革の中、おかげさまで当協会の活動も三十六年目を迎え、県内外から高く評価されているところでございます。この『ながさきの空』も定例の発刊を重ね四二六号を刻むこととなりました。

本年も『長崎学』を中心に、長崎の歴史を研究し、地域文化の振興に貢献してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

平成三十年 正月

戌年によせて

越中 哲也

先ずは新年の御挨拶 申し上げます。

お目出とう御座います、今年も良呂敷く御支援の程お願い申し上げます。本会も十八銀行頭取清島省三氏の御発案により創立させて頂いて三十六年となり、毎週開催いたしております月曜長崎学研究会・水曜懇話会・古文書研究会等も参加して下さる人達も多く盛会です。更に本年も引き続き御援助下さいますようお願い申し上げます。

さて、今年も、旧暦法・「十干十二支」(干支という)によると戌(いぬ)ノエ・イヌ)の年となる。干の文字は幹(木のミキ)であり、支は枝であるという。この古式の暦法は中国殷の時代(紀元前十六世紀)の遺跡・殷墟から発掘された甲骨文の中に十干十支の文字が刻してあるので殷時代

飢えて死んだ。この話を知った朝廷では大いに感じ、萬の墓に並べて犬を葬った。其の墓は有眞香邑(ありまかむら)にあり。良安は更に次のように記している。

△思うに、犬墓の所在分明ならず。有眞香邑は、今、河内の中に無し泉州日根郡に犬鳴山あり 之なるか

先日、日本獣医学史学会理事長の小佐々先生より先生監修の「義犬華丸ものがたり」を戴いた。先生は之の本の序文に次のように記しておられる。

今まで知られていない古い犬塚を筆者が長年にわたって全国的に調査するようになったのは、県指定文化財史跡大村家墓碑群のある大村市本経寺墓域内にある先祖大村藩家老小佐々市右衛門前親の隣に建つ「義犬華丸の碑(墓)」に興味を抱いたのがきっかけである。

華丸の碑文には慶安三年(一六五〇)六月十八日の年号其の物語が刻してある。概説すると次のようになる。

慶安三年六月十八日大村三大藩主大村純信の為に家老小佐々市右衛門前親殉死、其の火葬の儀を親族あい寄って行なつた時、市右衛門前親が子犬の時より愛していた華丸「家犬」が声を呑み、泣涙雨の如し。そして、卒に自ら火に投じて死せり。衆みな此処に愛犬の儀 あに申うことが爲にせんや、因つて以て石を建て其の事を録す。

先日、私もこの「華丸の碑」を大村本経寺に訪ねました。其処には「赤坂動物病院柴内氏寄贈」の華丸の石像と立派な碑文が建てられ、側面に次のように記してありました。

平成二十七年六月十八日 義犬華丸
三百六十五回法要記念

碑文 宇多源氏第三十八代 小佐々氏会会長小佐々



出島オランダ屋敷に飼われていた洋犬 (長崎古今集覧名勝図絵より)

長崎出島オランダ屋敷内には洋犬が飼われていた。一八〇〇年頃長崎唐絵目利で御用絵師であった石崎融思が描いたとされる長崎古今集覧名勝図絵の「阿蘭人之図」「異国ヨリ持渡鳥獣草木之図」には洋犬が描かれている。前図には

には已に普及していたであろうと言う。其の暦法が我が国に伝えられた時期については、先輩方の論考にあるように正倉院の御物の中に「十二支刻彫石板」というのがあるので其れ以前より十二支の干支は中国より我が国に伝えられていたと言う。

その十二支というのは、古代中国の天体学により十二辰に象(かたど)つて月を配したのは確かな事であるが、其の十二辰に多くの動物の中より「子は鼠、丑は牛、寅は虎」と各動物をあてたことについては、あまり良くわからないであろう。一説には中国の文字で鼠を「ネ」とよみ、兔を「ウ」と発音していた事より字音に合わせて動物をつけたのであると説明されているものもある。

次に十干(幹)というのは古代より人間社会に一番関係の深い物として中国では五行すなわち「木、火、土、金、水」があり、これに強弱(表裏)をつけて十という数になったとも言われている。又、一説には「人間は全ての作業は十本の指にはじまっている」ので十幹は之に始まるという説もある。十干の最初は甲であり「万物は全て種の甲を破って出で、次いで乙は軌と韻が通じ万物軋々として伸び、丙は炳である万物が炳然とあらわれ、丁は万物は丁壮になる」…等と説明し、今年の戌は戌であり万物盛んに茂るとある。

戌(いぬ)の事を「説文」によると孔子の説として「狗は叩なり、気を叩いて守る」のだそうである。

今年以上上の暦法により、良い年を迎える事になるのではないだろうか。

我が国で最古の犬塚の事は日本書紀崇峻紀にあると寺島良安は和漢三才図絵に次のように記している。

守屋の大連は太子と争い射利された時、守屋の下臣捕鳥部の萬は浪華の宅地を死守し自ら首を刎ねて地に倒れ死んだ。この時、萬が愛し育てきた白犬が萬の頭をくわえて古家の中に立ち去り、首の枕辺に臥し、遂に二面あり一ツには「新カピタン部屋玉突遊楽図」の玉突台の下に首輪をした犬が丸くなつて休んでいる図と、「蘭人食事風景図」の中に食卓の御馳走に鼻をならしている図があり、同様の構図は川原慶賀筆の「唐蘭館絵巻」にも描かれている。他の一つは「異国ヨリ持渡鳥獣草木之図」の中にも二面あり「二面」には大きな縞犬の洋犬の図と次のような説明を添えて二匹の洋犬図を描いている。

蛮国の飼犬 容形瘦 耳太ク垂レ 口広ク 様子夫々違テ弱ク狩犬等ニ成リ難シ 首延金ニテ養鍵ヲ掛ル也 是ニ綱ヲ掛ル程大 和犬ヨリ少シ大シ 此外 狎犬至テ好。蘭語 保舞登ト云

風信

○平成三十年一月五日(金)午前十時「新年度事務所びらき」をいたしました。昨・平成二十九年年度の来訪者は約二千人余もありました。

○本会で毎週開催いたしております全講座の一・二月の開催は恒例により「冬休み」と致しますが、一般の御来訪につきましては月水金曜日午前十時より午後三時まで開所いたしておりますので御気軽に御立ち寄り下さい。

○長崎商工会議所より本年度の長崎歴史文化観光検定を二月四日開催するの「今年も良呂しくお願い致します」との事。長崎検定は全国的にも有名で今年も十三回だそうです。中でも一級合格者は中々むつかしいそうです。

○全国の昭和写真アルバムを編集されている名古屋の樹林舎の河合真吾氏来訪、これまで長崎県下では「島原・雲仙の昭和」、「佐世保・北松浦の昭和」、「諫早・大村・東彼の昭和」の三冊が発刊されてきた。今年「長崎の昭和」を発刊したので御協力下さいとの事。

○昨年末長崎経済研究所より「ながさき経済」の送付あり。平成29年最終号に「昨平成29年は良い年だったでしょうか?」という問いに対して「まあまあ良い年だった」と答えた人は全体の七割に上りましたとあり、「昨年の事を漢字一文字で表現したら、楽」「律」の文字等 比較的ポジティブなイメージの文字が多く見られたそうです。今年もこれに続いて良い年になりますよう願っております。

○新年に御寄贈いただいた書籍 宮川雅一氏より「高島秋帆」。我が国洋式砲術の開祖とされる秋帆に関し多岐にわたる論考であり、大いに参考となった。(長崎文献社刊・一六〇〇円)

